

岐阜県飛騨市 渡辺酒造店 IWCのSAKE部門出品

チャンピオン候補に

7日発表へ期待



ノミネートを喜ぶ渡辺久憲社長(左)と渡辺隆専務

英国・ロンドンで7日(日本時間8日)に開かれる、世界最大級のワイン品評会「インターナショナルワインチャレンジ(IWC)」アワードディナーで、SAKE(日本酒)部門の最高賞「チャンピオン・サケ」が発表される。SAKE部門はさらに九つに分かれ、普通酒部門トップの岐阜県飛騨市の渡辺酒造店が造る「蓬菜 天才杜氏の入魂酒」「小町桜」がノミネートされている。「2品とも味、品質で満足してもらえる」と話す同酒造店の渡辺久憲社長らは、期待を込めて発表を待っている。

9部門は普通酒の他、本醸造、純米酒、純米吟醸、純米大吟醸、吟醸、大吟醸、古酒、スパークリング酒。それぞれ最高位「トロフィー」を選び、同酒造店は普通酒で同賞を獲得した。

同酒造店は1870年創業で、渡辺社長は9代目。「飛騨の水と酒造好適米『ひだほまれ』で製造した酒が世界に通用することを証明でき、大変うれしい」と喜びを語る。理念は、日本で一番笑顔があふれる蔵。「蔵人が笑顔で造れば、飲んだ人にも伝わる。世界各地の言葉で『日本酒でカンパイ!』と発声してもらうのが目標」と、広がりを目指す。

SAKE部門には、346の蔵元から12002銘柄の出品があった。

(岐阜・飛騨)